



お盆 (七月十三日〜十六日)
当山の

お施餓鬼法要は
七月十七日(火)
午前十一時より

お盆にはお塔婆をあげて墓参をしご先祖に感謝の気持ちを捧げましょう。

お盆の正式な呼び名は「盂蘭盆」と言います。インドの言葉であるウラバンナを漢字に当てたものです。ウラバンナは「倒懸」と訳します。「倒」(たおして)「懸」(つるす)、すなわち、逆さまに吊り下げられた苦しみが「ウラバンナ」ということとなります。仏教では苦しみの原因として、三毒(貪・瞋・痴)を説きます。「貪」(とん)とは、むさぼり、欲深い心。「瞋」(じん)とは、いかり、うらむ心。「痴」(ち)とは、真理を知らず、正しい判断ができないこと。貪・瞋・痴の三毒は仏教の基本的煩惱です。この三つの心が、清い心を迷わせ、心を逆さま

日蓮聖人遺訓 一〇

「水は水より出でたれども水よりもすさまじ、青き事は藍より出でたれども重ねぬれば藍よりも色まさる」
(乙御前御消息)
大きな堤防の崩壊も蟻の穴から始まるといいます。小さな事でも積み重ね、努力を続ける事が肝心です。



水が
宝清寺



境内に咲いた
たちばなの花
可憐な花が沢山
咲き、実をつける
のが楽しみです。

にして苦しみを味合わせているのです。仏教では、三毒の反対の幸せの要因として、三善根(施・慈・慧)を説いています。「施」(せ)とは、ほどこしの心。「慈」(じ)とは、いつくしみの心。「慧」(え)とは、ちえをもつて処することです。人間は三善根を行うことは大変難しいものです。
お盆の行事はウラバンナという苦しみの世界にある亡き先祖を追善供養することによって救うための供養の期間とされていますが、三毒と三善根の思想は現世の「苦しみ」であり「幸せ」と言えるのではないのでしょうか。
この新聞を読まれる年齢層の方で万歩計を所持している人は多いと思う、万歩計を持たないまでも、歩くことを心掛けている人は少なくないはずですが、その方々は歩くことは健康に良いとの考えから、健康を維持しようという前向きな気持ちから歩くことを心掛けています。しかし、最近では、小学生などの低年齢層の子供に親が万歩計を持たせて、子供が一日一万歩以上歩いたかをチェックしているらしい。それは、親が子供たちの健康を心配して持たせているのであり、子供が健康管理のために自発的に持っているわけではない。この傾向は由々しき問題です。子供たちが塾やゲームを中心とした生活から、肥満や糖尿病にかかるケースが増えていると言ったことだけに止まらず、親や教師の管理下で生活しているため、子供たちの自立性が育たず、親や教師の指示なしには生活できない消極的な子供が増えているということでもあります。この傾向は、親や教師がどんなに良いしつけや教育を行ったとしても、年齢に応じた社会との関わりが少ないうえに、行動の欠如を懸念する親が子供に万歩計を持たせているのです。子供に万歩計を持たせないまでも、大人たちは子供たちの「自我のめざめ」を大切に、自立性が育つよう年齢に応じた社会との関わりが十分に持てるよう配慮し、愛情を持って見守ることが必要です。ある哲学者が、「年齢を重ねても将来に向かって向上心の持てる人は永遠の青年である。また、若年層であっても将来に夢や希望などの向上心を持たない人はたとえ年齢が若くても年寄りである。」と述べています。我々が万歩計を持ち自己管理に努力する気持ちを若者に伝えたいものです。

住職のお花は寺務所にあります

お盆の期間中、菩提寺の住職が自宅に行き、お経をあげることを「棚経」と言います。棚経の由来はお盆にまつらえた精霊棚の前であげるお経からきています。現在では精霊棚を作る家はそれほど多くはありません。そのため現代では仏壇の前でお経をあげるのが普通です。亡くなって初めて迎えるお盆を「新盆」「初盆」と呼びます。まだ、「四十九日」の済まない仏さまの場合は、翌年に、「新盆」「初盆」行います。当山では、新盆のお宅には、「棚経」に何う予定にしています。また、「新盆」を機会に、以後、毎年「棚経」に何うお宅もあります。「新盆」以外で新たに、「棚経」を希望される方は、管理寺務所にお申し出下さい。